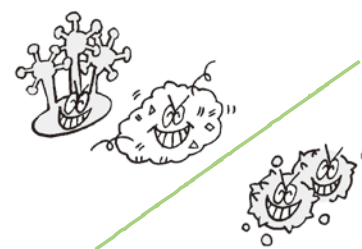


アレルギー性鼻炎

体内の異物から身を守る免疫の仕組みが、特定の物質に対して過剰に働くアレルギー反応。アレルギー性鼻炎の原因物質は抗原(アレルギー)と呼ばれる、花粉やダニ、ハウスダスト、カビなどさまざまです。

「アレルギー性鼻炎」って、どんな病気？

通年性と季節性がある



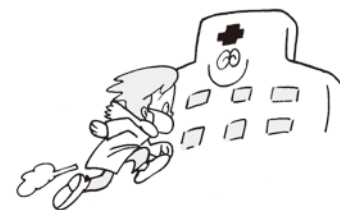
アレルギーの原因となる抗原(アレルゲン)が「ハウスダスト」や「カビ」であれば年間を通じて、「花粉」であれば花粉が飛散する季節に症状が出ます。

原因物質にさらされないことが予防に



花粉なら外出時には「マスクやつるつとした素材の衣服を身につける」、ハウスダストなら「しっかりと布団の掃除機がけをする」などが予防のポイント。

軽く考えずに一度は病院へ



アレルギー性鼻炎と思っても、副鼻腔炎の合併や、他の鼻副鼻腔疾患があるという場合も。自己判断は危険です。

主な症状は…



「くしゃみ」「鼻水」「鼻つまり」が3大症状。「目がかゆい」「においがわからない」「のどがイガイガする」といった症状を伴うことも。

突然発症することも



今まで症状がなくても突然発症する可能性があるため、将来もずっと大丈夫というわけではありません。

「アレルゲン免疫療法」で根治も期待



抗原(アレルゲン)の成分を少しずつ体内に入れて体質改善をはかる治療法。年単位で続ける必要がありますが、根治も期待されています。

症状が重い場合には手術も「アレルギー性鼻炎」の治療

鼻の症状によって集中できないなど、生活に大きな支障を及ぼすアレルギー性鼻炎。その治療について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の先生に聞きました。



実は私も花粉症。舌下免疫療法を続けています

他科とも連携してスムーズに検査や治療を行えるよう努めています

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 都築建三 准教授

鼻には、吸い込んだ空気の温度・湿度調節のほか、侵入した異物を、のどや気管などに入る前に、鼻汁(びじゅう)やくしゃみにより排出させる役割があります。

このため、鼻汁などの生理的な反応は不可欠なものです。必要以上起こるのがアレルギー性鼻炎です。診断と治療は鼻アレルギー診療ガイドラインに基づいて行われます。診断には、まず症状を詳しく聞き、内視鏡で鼻の中を視診します。鼻汁中の好酸球も確認します。抗原の特定には、血液検査、皮膚テストなどを用います。

治療には、まず抗原回避などの日常生活の改善が必要。症状を和らげるために、抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬といった飲み薬やステロイド鼻噴霧薬などを、症状や重症度に合わせて適切に処方します。改善が見られない場合、手術療法を選択することも。鼻汁の分泌を司る神経を切断してくしゃみ・鼻汁を軽減する手術や、腫れて鼻つまり(鼻閉)を起こす部分(下鼻甲介)の粘膜をレーザーなどで焼灼する手術、粘膜下の組織を切除する手術、鼻を左右に分けている壁(鼻中膈)を矯正す

る手術などがあり、当院では内視鏡下で手術を行います。ただ、アレルギー体質による免疫反応を抑えられるわけではありません。

根治を期待できる治療法が、アレルギーの原因となる抗原(アレルゲン)を少しずつ体内に摂取することで反応を軽減させる「アレルゲン免疫療法」。注射による皮下免疫療法と、舌下に液体や錠剤を入れる舌下免疫療法があります。現在の舌下免疫療法は、ダニ通年性アレルギー性鼻炎とスギ花粉症に対して保険適用になっており、1日1回のアレルゲン摂取を長期間続ける必要があります。初回は医療機関で投与しますが、翌日からはご自宅で続けることができます。ただし、免疫疾患や気管支ぜんそくが重い方、特定の薬を使用されている方、妊娠されている方などは、この治療を受けられません。

アレルギー性鼻炎だと思っていたら実はポリープや腫瘍が原因だったという場合もあるの。鼻の症状があれば一度医療機関を受診しましょう。